

MaaSの推進に向けた基盤整備事業・事業評価総括表

関東運輸局

評価対象事業名：地域交通キャッシュレス決済導入支援事業

①補助事業者	②事業概要	補助事業者における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		③事業実施の適切性		④目標・効果の達成状況		⑤事業の今後の改善点	
東京都交通局	京急電鉄(株)とともにクレカタッチ決済のシステムを導入し、増加している訪日外国人旅行客が、羽田空港から都心までキャッシュレスでスムーズに移動できる乗車サービスの実証実験を開始。	A	計画どおりシステム改修及び設備設置が完了し、令和6年12月21日から、京急電鉄(株)とともに実証実験を開始。	A	クレカタッチ決済に対応するための上位システムの改修を完了したことにより、自動改札機（26駅53台（浅草線12駅、三田線1駅、大江戸線13駅））と窓口処理端末（窓口機）（都営地下鉄全駅(106駅193箇所)）でクレカタッチ決済対応が可能となった。	多数の事業者が乗入等を行っている首都圏の鉄道事情を踏まえ、ともに実証実験を実施している京急電鉄(株)以外との連携等についても検討が必要。	➤ 自己評価にあるとおり、概ね計画通り適切に実施されている。 ➤ 今後のさらなる利便性向上に資する取組に期待する。

①補助事業者	②事業概要	補助事業者における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		③事業実施の適切性		④目標・効果の達成状況		⑤事業の今後の改善点	
京浜急行電鉄株式会社	・羽田空港を利用するインバウンド旅客を中心としたお客さまの利便性向上および駅混雑解消のため、2024年12月21日から京急線 9 駅にてクレジットカード等のタッチ決済による乗車サービス（実証実験）事業を開始した。 ・相互直通先の東京都交通局と同日にサービスを開始し、羽田空港を玄関口とするインバウンド旅客が、券売機に並ぶことなく快適に都心方面へ移動できるようになった。	A	導入駅への機器設置や環境整備においては、計画通り2024年12月20日までに完了し、相互直通先の東京都交通局と同日にサービス開始を実現した。	A	簡易改札機：6 駅 6 台、窓口処理端末：9 駅12 台、試験場 1 台を計画通り2024年12月20日までに導入達成した。	本事業において、京急線 9 駅にてクレジットカード等のタッチ決済による乗車サービス（実証実験）を実現し、インバウンド旅客を中心としたお客さまへ新たな交通利用手段の提供および相互直通先への移動快適性（利便性向上）を実現できた。 しかし、現状導入駅が京急線全駅でなく未導入駅も多いため、未導入駅での取扱いについて課題や意見をいただくことがある。今後は本事業の効果測定を実施したうえで、お客さまサービス観点から、京急線全駅への導入を検討し、2025年12月を目途に実現していきたい。	➤ 自己評価にあるとおり、概ね計画通り適切に実施されている。 ➤ 今後のさらなる利便性向上に資する取組に期待する。

①補助事業者	②事業概要	補助事業者における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		③事業実施の適切性		④目標・効果の達成状況		⑤事業の今後の改善点	
横浜高速鉄道株式会社	利用者の利便性向上および業務効率化のため、2024年12月4日より、QRおよび非接触型クレジットカードを活用した新たな乗車システムを導入し、検証する事業を実施。 本事業の対象設備（自動改札機、窓口処理端末等）については、2024年12月4日までに完了。	A	対象設備については、計画どおり、みなとみらい線新高島駅～元町・中華街駅への設置およびシステム構築を完了し、事前購入型および都度決済型の2類型で乗車システムとして正常に稼働。	A	自動改札機、窓口処理端末、通信機器、デジタルチケットシステム、Q-moveセンターシステム→2024年12月4日までに導入達成。	本事業において、東急電鉄と連携し、事前購入型における2社線共通の企画乗車券発売や、都度決済型で2社線に跨った乗車が可能となった。また、外国人旅客に対する乗車券発売時の案内業務の減少や、利用実態に関するデータ分析等、業務改善への可能性も見出された。今後、システムの安定稼働や利用可能な改札機の増設による利便性向上を検討するとともに、行政や沿線施設等との連携にも活用することで沿線地域の活性化に繋がる取組みを検討していく。	➤ 自己評価にあるとおり、概ね計画通り適切に実施されている。 ➤ 今後のさらなる利便性向上に資する取組に期待する。

①補助事業者	②事業概要	補助事業者における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		③事業実施の適切性		④目標・効果の達成状況		⑤事業の今後の改善点	
永井運輸株式会社	・利用者の利便性向上及び業務効率化のため、2022年3月からICカードシステムを導入。 MaeMaaSと連携、2023年3月15日よりGunMaaSへとサービスリニューアルを実施。 ・増車車両に対して追加するICカード対応運賃箱については、2025年3月末までに導入完了見込み。	A	計画どおり、2025年3月末にICカード対応運賃箱を導入見込み。2025年1月末日にてGunMaaSにて新たなバスチケットが追加されてICカード連携が強化され、増客につながる取り組みとなった。	A	2025年3月末日導入見込み。	本事業において全車両へのICカード対応運賃箱の導入により、利用者に対してバス乗車に対する利便性と多数の選択肢を提供することが可能となった。今後も、自治体と連携し地域一体となり、地方におけるバス乗車率の改善策について検討し、取り組むこととする。	➤ 自己評価にあるとおり、概ね計画通り適切に実施されている。 ➤ 今後のさらなる利便性向上に資する取組に期待する。